



合言葉は「うまくて、でっかいの」
美味しい！の笑顔をお届け

福島県福島市
鈴木農園

FGAP/JGAP認証取得
もも、りんご、ぶどう



鈴木農園の果樹栽培は1950年頃、初代がお米や野菜に加えて、ももの栽培を始めたところから始まりました。現在のもも、りんご、ぶどうを栽培しています。現園主の鈴木満さんは県外でエンジニアをしていましたが2016年に地元に戻り就農、先代と農園を経営しています。

農園の合言葉は「うまくて、でっかいの」。大きく美味しいのはもちろん、安全性や環境にも配慮。食べて幸せを感じ、笑顔になれる果物をお届けすべく日々励んでいます。そのためのごדわりは、量より質重視の栽培。例えば、ももの摘果(てきか)。果実の生育をよくするために余分な果実を摘み取る作業で、収穫2週間前の作業では、一般には1~2割を摘果します。鈴木農園では3~5割の実を摘果し、種に異常がなく、美味しくなりそうな実だけ残すようにしています。また、りんごでは、着色を良くする為に、果実を日陰にする葉を摘み取る作業をしますが、この時に摘み取る葉を最小限にしたり、最後まで葉を残し、養分を供給する「葉とらずりんご」栽培に取り組むなど、味が濃く、蜜入りのよいりんごを目指しています。

その他、土壌分析を行い、その結果をもとに有機肥料と化学肥料を組み合わせることで環境負荷の少ない施肥をしたり、その年の天候や果樹の状態に併せて農薬の使用量が最小限になるよう工夫したりと、環境負荷の小さい、持続可能な農業に取り組んでいます。



福島県福島市でもも、りんご、ぶどうを育てる鈴木農園は、2017年にJGAP認証を取得。環境保全や持続可能な農業への取組を強化しており、圃場で使用するプラスチック資材の削減や農薬使用量の削減を進めています。中でも、プラスチックの自然環境中への散乱には注意を払っており、例えば、ぶどう栽培で使用する誘引テープは90%以上をビニル製から紙製に置き換えています。紙資材はコストや使い勝手の点でビニル製に非常に劣るため、このような取り組みは他ではあまりないことです。他にも、剪定枝のチップ化など、自然環境にやさしい農業を実践しています。



<https://www.muji.com/jp/ja/store/cmdty/section/T50001>



鈴木農園
<https://gap-fukushima.jp/user/p170019/>

